

社寺名 吉藤三島神社(松山市吉藤町1-2-25)

奉納者 松岡多三郎(幸久)

奉納年 明治13年7月(1880年)

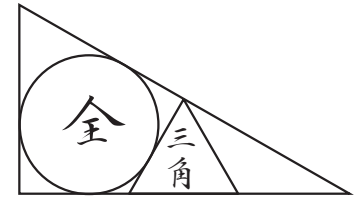
### 解説

松岡多三郎は、安政2(1855)年7月20日当地(現在松山市吉藤町)の庄屋の長男として生まれ、幼少よりお茶・花を身につけ、一方、松山に数台しかない自転車を乗り廻し、近所では非常に“ハイカラな人”で通っていた。和算を研究しはじめると別棟に研究室を建て、研究に没頭していた。時折、近所の山の頂上で風船をとばして気象観測や天体観測を行ったりするので、近所では“変わり者”とうわさされてもいた。

自分の息子が勉強しないので“子どもの成長を祈願して奉納した”とのうわさが広がり、奉納後はみちがえるように勉強をしたとのことである。(孫・松岡文雄談)

松岡太三郎の名で伊佐爾波神社に算額を奉納しているが、同一人物である。

平成16年11月11日松山市指定有形民俗文化財に指定されている。



今有如圖釣股内容平圓與三角只言釣  
壹百零八間六合又云股一百四拾四間  
八合問三角面術幾何

答曰三角面五十三間有奇

術曰置釣自之加股冪<sub>ラ</sub>平方<sub>ニ</sub>開之加股<sub>ラ</sub>名天<sub>ト</sub>  
内減釣<sub>ラ</sub>餘倍而名地<sub>ト</sub>置三個平方開之乘天<sub>ラ</sub>  
以釣<sub>ニ</sub>除之加三箇<sub>ラ</sub>以除地<sub>ラ</sub>得三角面合問

温泉郡山崎昌龍 門人

和氣郡吉藤村

明治十三年  
七月

松岡多三郎

印

印

### 問題文

図のように、直角三角形(釣股)内に円と正三角形を入れる。直角をはさむ2辺の内、釣の長さが108間6合、股の長さが144間8合であるとき正三角形の1辺の長さはいくらか。